

インターンシップ報告書

群馬大学大学院 工学研究科 電気電子工学専攻
情報通信システム第二研究室 小林研究室所属 修士一年 三田 大介

私はアルプス（ALPS）電気株式会社が主催する米国でのインターンシッププログラムに2008年10月6日から2008年10月31日までの26日間、参加させていただきました。今回お世話になった会社は米国ユタ州ソルトレイクシティにある Cirque Corporation という所でアルプス電気株式会社の子会社となるところです。タッチパッドやセンサーなどを開発、製造している会社で従業員は約30名のベンチャー企業に近い雰囲気の家会社でした。また、Cirque Corporationがあるユタ州ソルトレイクシティは2002年に冬季五輪が開催された場所でもあり、自然豊かでスキーやスケートなどのウィンタースポーツが盛んな場所です。今回の米国でのインターンシッププログラムに参加させていただくことになった経緯は私の指導教員である小林春夫教授に参加のお誘いがあったからだと聞いています。Cirque Corporationがアナログ回路設計を研究している大学の研究室をいくつか指定し、その中の一つに私が所属する研究室があったそうです。

実際に米国のインターンシッププログラムに参加してみて、様々な日本との違いを感じさせられました。今回のインターンシッププログラムの実習内容はアナログ回路設計の基礎とも言えるオペアンプ（演算増幅器、Operational Amplifier）の設計であり、座学からシミュレーションツールを使用した設計、特性の解析、レイアウトまでの設計の流れを一通り勉強してきました。また、レイアウトは時間が足りず、座学とディスカッションのみで実際のレイアウトは Cirque Corporationの技術者の人が行ってくれました。最後にはまとめとしてプレゼンテーションを行いました。また、プレゼンテーションは実習内容のまとめという技術的なものと日本と米国の文化の違いなどについてまとめたものの二種類行いました。Cirque Corporationでは私達に技術的なことだけではなく米国での生活や仕事、文化的な違いについて学んで欲しかったそうです。

実際、Cirque Corporationの会社の雰囲気はとても和やかなものでした。上下関係も厳しいといったものではなく、様々な場所で議論や話し合いをしても、内容には真剣に互いの主張や考えをぶつけるのですが時折冗談などを言って笑いあっている姿を見ました。その中で私が一番驚いたのは就業時間についてでした。私は日本の企業のインターンシッププログラムにも参加したとことがあるのですが、日本の企業では始業時間と終業時間がきちんと決められているのに対して、米国の企業では時間に多少の融通が利くそうです。私はこれにきちんと成果をだせば個人の都合を尊重できるのだと感じました。私ともう一人、同じ研究室の学生を担当してくれたアナログ回路設計のグループの人達の中には様々な国籍の人達があり、仕事を得る為に米国にやってきたそうです。また、どの人も他の企業での仕事に従事していた経験があり、自分を高める為に様々な努力を積極的に行っているの

だと感じました。他にも米国ではボランティアが重要な意味を示しており、就職に大きく関係しているそうです。さらに実際に大学を卒業しただけでは駄目で、就職する為にはインターンシップなどで経験と技術を積み、自分を売り込む必要があると聞きました。米国では学歴ではなく、自分がどんな技術を持っており、どんな成果をあげてきたかということの方が重要視されるそうです。これらの事から米国での仕事に対する意識の高さを感じました。また、この事は今回のインターンシッププログラムの実習内容にも関わっていました。当初、Cirque Corporation の私達を担当してくれた技術者の人は私達がアルプス電気株式会社を通して送った履歴書から実習内容を決めようと考えていたそうです。あちらでは履歴書に自分の技術や成果を書くので、履歴書から技術者としての分野やレベルを読み取ることができます。しかし、私達はそのようなことを知らなかったので、送ったのは学歴などを英語に訳した一般的な履歴書でした。無論、日本の履歴書にも自分の技術や成果を書くものもありますが学生ということでそれを送らなかった結果、担当者は私達の技術や分野を正確に把握することができず、今回のようにアナログ回路設計の基礎であるオペアンプの設計に決定したそうです。このことから私は日本と米国での仕事に対するアピールの違いを感じました。

あちらでの生活は仕事だけではなく、休日には Cirque Corporation の人達に観光に連れて行っていただきました。有名なモルモン教のテンプルスクエアやグレートソルトレイクなど、歴史的に興味深く、豊かな自然などを実感できました。他にも Cirque Corporation の製品の完成を祝うパーティにも参加させていただいたのですが、観光とパーティのどちらにも家族を連れて来ていたのに驚きました。あちらでは家庭を非常に大切にすることで、ここにも日本との文化的な違いを感じました。

また、今回のインターンシッププログラムでの一番の問題は言語でした。自分の伝えたいことを話そうとしても知らない単語があったり、どの様に話していいか分からなかったり、あちらの伝えようとしている内容が分からなかったりなど様々な問題がありました。しかし、Cirque Corporation の社員の人達だけでなく、滞在したホテルの従業員の人達も根気強くこちらの話を理解し、伝えようとしてくれました。

今回のインターンシッププログラムを経験して、米国では自分の技術や地位などを積極的に高めようと努力する仕事に対する意識の高さと貪欲さを感じました。そうであるにも関わらず、周囲と円滑なコミュニケーションが取れていることに米国の大きさを感じました。日本の大学で海外でのインターンシッププログラムという大変貴重な経験をさせていただき、将来に向けて様々なことを考えさせられました。今回の経験が私の将来に大きく役立つと感じさせるインターンシッププログラムでした。



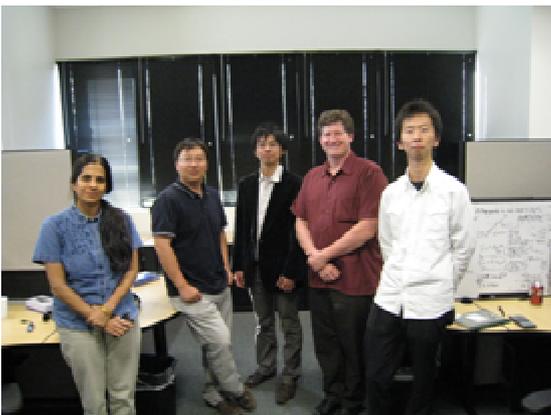
Cirque Corporation



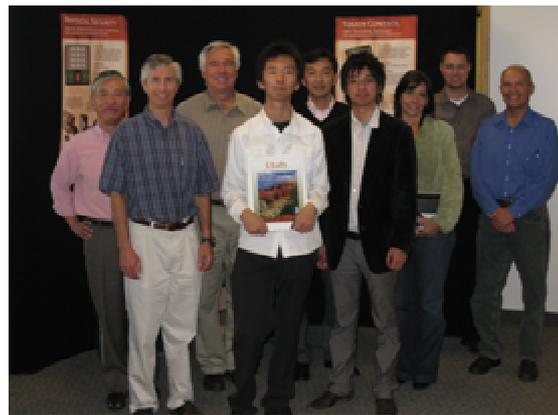
テンプルスクエア



グレートソルトレイク



仕事場の風景 1



仕事場の風景 2